

## 2. ラ・マル・ド・ボア

### 1. はじめに

本節では、JR西日本が運行する観光列車「La Malle de Bois（ラ・マル・ド・ボア）」を紹介するとともに、筆者が2023年8月に乗車した記録を示す。



(La Malle de Bois)

### 2. 運行の概要

「La Malle de Bois（ラ・マル・ド・ボア）」は、岡山駅から宇野・三原・日生・琴平の4方面へ、せとうちエリアを旅する特別な観光列車として運行されている車両の愛称である。「晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーン」（2016年4月から6月）および「瀬戸内国際芸術祭2016」の開催に合わせて、2016年春から運行されており、会期終了後も引き続き運行している。※瀬戸内国際芸術祭は、3年に1度瀬戸内の島々で行われるアートの祭典。

列車は行き先別に愛称がつけられ、数カ月前に発表される運転日（土日祝日）に、いずれか1往復ずつ運転されている。各列車の運行区間は以下の通り（2023年11月現在）。

- ・「ラ・マル せとうち」：岡山-宇野（約1時間）
- ・「ラ・マル しまなみ」：岡山-三原（停車駅：倉敷、福山、尾道＝約1時間50分）
- ・「ラ・マル 備前長船」：岡山-日生（停車駅：東岡山、長船、伊部＝約1時間）
- ・「ラ・マル ことひら」：岡山-琴平（停車駅：児島、多度津、善通寺＝約2時間）

2023年度上半期の運転計画によれば、おおむね隔週で「せとうち」と「しまなみ」が運行され、「ことひら」が祝日の運転となり、「備前長船」は運転本数が少なくなっている。一方、下半期には「備前長船」の運転が増加し、「せとうち」の運転が減少する予定である。

乗車にあたっては、乗車券の他に普通列車の指定席グリーン券が必要であり、青春18きっぷを使用して乗車することはできない。グリーン券は、JR駅窓口のほか、JR西日本ネット予約「e5489」でも購入することができる（児島-琴平のJR四国区間でも購入可）。

### 3. 車両の特徴

2両編成の列車は、各車両にリクライニング座席（32席）に加え、窓向きのカウンター席（19席）があり、より景色を楽しみやすい構造となっている。なお、車いす対応座席が1台分設けられている。車内は床などに木を使用して全体的に落ち着いた内装としており、高級感のあるフローリングデッキや、瀬戸内にまつわる本が並べられた棚などのインテリアが、印象的である。

この列車の大きな特徴の一つは、いわゆる「サイクルトレイン」として運行されていることである。車両の端に自転車を4台積み込めるスペースがあり、自転車をそのまま列車に乗せて、ともに移動することができる。列車の座席指定を受けた乗客は無料で利用することができ、対象列車のグリーン券との同時購入またはグリーン券を既に持っている場合に、サイクルスペースの利用券「ラ・マルサイクル」の発行を受けることができる。さらに、ラ・マル・ド・ボアが発着する岡山駅5番のりばには、自転車組立場が設置されており、自転車の組立・解体に使うことができる。なお、専用サイクルスペースを設けていない列車を利用する時や、駅構内を移動する時に折りたためるよう、輪行袋に収納可能な自転車のみが対象となる。また、スペースの利用は「ラ・マル せとうち」に乗車する場合と、「ラ・マル しまなみ」を岡山駅で乗車し尾道駅で降車する場合に限られている。

瀬戸内国際芸術祭 2016 に合わせて運行を開始したことと関連して、ラ・マル・ド・ボアは「せとうちのアートな観光列車」としての側面も強い。内外装のデザインを、瀬戸内国際芸術祭で総合ディレクターを務める、アートディレクターの北川フラム氏が担当している。また、外装デザイン・ロゴを大黒大悟氏、企画デザインを小平悦子氏がそれぞれ担当している。車体は白と黒のコントラストが印象的であり、「黒い太線によって、車窓をかばんのように見立て、旅にまつわる旅情を誘う絵柄や言葉の数々を、白い車体に大胆にデザイン」しているという。一方で車内には、蓮沼昌宏作「連絡船の物語」、角文平作「旅の道具の旅」といった旅をイメージするアート作品が飾られており、観光地への道中でも、アートの瀬戸内を楽しむことができる。また、日本を代表するアルパ奏者の上松美香氏が手がけたオリジナル BGM が流れ、旅の気分を盛り上げる。

これらに加えて、車内販売カウンターが設置され、お土産や飲食物（「ええもん・うめえもん」と呼ばれている）を販売している。「旅するせとうちスイーツ BOX」（要予約）や「岡山ばら寿司 旅の小箱」は、岡山の特産品を楽しむことができる食事となっている。



（内装）



(蓮沼昌宏作「連絡船の物語」)

#### 4. 沿線の特徴

本節では、ラ・マル・ド・ボアで行くことのできる、沿線の観光地をあげ、観光列車としての役割を確認する。

「ラ・マル セとうち」は、宇野駅（岡山県玉野市）へ向かう。駅近くの宇野港が瀬戸内国際芸術祭の開催地となったことから、多くのアート作品が周辺の屋外に設置されている。空き缶などを使って作られた「宇野のチヌ」が目を引きほか、宇野駅自体もアート作品として生まれ変わっている。海とアートを見て楽しめる観光地となっている。

「ラ・マル しまなみ」は、倉敷・福山・尾道を経由して、三原駅（広島県三原市）へと向かう。倉敷美観地区（倉敷駅）、景勝地・鞆の浦（福山駅）、海と山の街並み・尾道（尾道駅）といった、全国的にも有名な観光地がいくつも並んでいる。観光地へと乗客を運ぶ列車としての役割を存分に発揮できるだろう。

「ラ・マル 備前長船」は、日本刀の産地・長船、備前焼の里・伊部を経由して、港町・日生（岡山県備前市）へと向かう。伝統的な名産品を知り、海産物を楽しむことができる。岡山県、そして瀬戸内海の魅力を感じることができるルートとなっており、観光地へのアクセスに適している。

「ラ・マル ことひら」は、鉄道道路併用橋として有名な瀬戸大橋をわたり、善通寺駅、琴平駅（香川県仲多度郡琴平町）へ向かう。こんぴらさんの愛称で親しまれる金刀比羅宮や、その周辺の温泉郷は、終点の琴平駅が最寄りとなる。海の神様として、多くの観光客が参拝に訪れる。

## 5. 乗車の記録

### 【概要】

2023年8月11日(金・祝) ※3連休およびお盆(=8/11~8/16)初日

「ラ・マル ことひら」

岡山 10:11ー児島 11:02ー多度津 11:29ー善通寺 11:38ー琴平 12:00 (時刻表上)

2号車 11D席 (カウンター席：進行方向右側：ドア横)

筆者が乗車したのは、岡山駅(岡山県)と琴平駅(香川県)の間を走る、「ラ・マル ことひら」である。4つある行き先のうち琴平を選んだのは、瀬戸大橋をわたるからである。カウンター席から海を向いて列車に乗り、景色が楽しめることを期待した。

乗車当日は、快速マリンライナーで香川県内から岡山駅へ向かった。グリーン券は「e5489」で事前に入手していたものの、岡山から琴平までの乗車券は(クレジットカード払いにすべく)「みどりの券売機」で購入する予定でいた。しかし、連休初日となった8月11日は、山陽新幹線や四国・山陰方面の特急列車が発着する岡山駅は、多くの旅行客で非常に混雑しており、券売機には長い行列ができていた。結局みどりの券売機での購入をあきらめ、近距離用の券売機で(現金で)乗車券を購入した。主題からは逸れるが、連休のターミナル駅の混雑を実感した次第である。

「ラ・マル ことひら」は、岡山駅5番のりばから発車する。ホーム上の電光掲示板には「臨時 ラ・マル・ド・ボア」と表示されていた。ホーム上の柱は旅行カバンのデザインに「La Malle de Bois」「Have a nice trip!」「Bon voyage!」と書かれた専用のデザインとなっているほか、柵には「La Malle de Bois」の幕が張られている。また、専用の自転車組立場が確認できた。なお、これらの装飾物は、別日に快速列車を利用した時にもあったことから、ラ・マル・ド・ボアの運行がない日でもそのまま設置されているようである。

車内の利用状況は、正確な数は把握していないものの、当日の写真を含めて確認すると、2号車よりも1号車のほうが混雑していた。特に、1号車のカウンター席は、進行方向左側にあり、より景色を楽しむため、人気だった。2人1組のリクライニングシートは、窓側を一人客が利用しているケースが多く見られた。子ども連れの利用は少なく、乗客の年齢層は高めだった。また、大きなキャリーケースを持った利用者もいた。一方で、鉄道ファンと見られる利用者は数名程度だった。なお、自転車を置くスペースは、ホームページの案内とは異なり、この区間でも利用者がいた。

列車は、岡山到着が遅れた特急列車の折り返しの出発を待ち、岡山駅を4分の遅れで出発した。発車時には、ホーム上に設置された大きな鐘が数回鳴らされ、ラ・マル・ド・ボアの出発を知らせた。鐘が設置されていないこの先の駅では、乗務員が手元の鐘で同様に列車の出発を知らせている。なお、この日は前日の高知県内の大雨による影響が続いたことに加え、お盆による利用増加により、四国方面の特急列車に10~20分程度の遅れが発生しており、その影響でそのほかの快速列車等にも影響が出ていた。



(車内の自転車置き場)

短い2両で走るラ・マル・ド・ボアは、瀬戸大橋線へと向かった。途中の妹尾駅では、列車待ち合わせのため、数分の停車があったが、扉は開かなかった。一方、その先の茶屋町駅では、停車駅としての設定はないものの、扉が開きホームへ出ることができた。この駅では高松方面の快速列車と、岡山方面の特急列車との行き違いがあり、両方の列車の遅れも伴って10分以上の停車時間となった。この時間は記念撮影の時間となり、「La Malle de Bois / 2023.08.11」と書かれた日付入りの記念ボードを持って列車と写真を撮ることができた。乗務員さんの協力があり、1人での利用でもしっかり思い出を残すことができる。また、家族連れにとっても良いサービスである。

筆者はこの区間で車内販売を利用し、「恋するジャージーPremium おかやまバナナ」を購入した。この商品は、酪農が盛んな岡山県真庭市で育てられたジャージー牛のミルクを使用したジェラートで、列車の運行地域の特産品が意識されている。なお、当初購入予定だった「白桃ネクター」（岡山県産清水白桃を使用）は、出発後すぐに売り切れたようだった。また、車内では以前別の区間でラ・マル・ド・ボアを利用した乗客が、乗務員との再会を喜ぶ様子が見られた。



(恋するジャージーPremium おかやまバナナ)

次に停車した児島駅では乗降の扱いがあるが、すぐの出発となった。瀬戸大橋をわたる際には、車内放送で瀬戸大橋の紹介があった。このような案内は、児島駅周辺の名物であるシーズや、瀬戸内海に浮かぶ島の灯台、その形状から「讃岐富士」の名で親しまれる飯野山を見ることができるときにも、車内放送によりなされた。乗車当日は夏空が広がる比較的良好な天候で、瀬戸内海の景色を楽しむことができた。なお前述のとおり、2号車のカウンター席は進行方向右側を向いているため、線路を1本挟んでおり若干距離を感じる。早めの予約で1号車のカウンター席を利用したほうが、より車窓を楽しむことができるかもしれない。



(瀬戸大橋から見る瀬戸内海)

「ラ・マル ことひら」は、瀬戸大橋を渡ると多度津駅まで停車しない。観光列車としての特徴ではないが、途中の宇多津駅・丸亀駅ホーム（ともに予讃線）を通過する定期列車はほとんどないため、珍しい乗車体験ができるともいえる。多数の留置線が広がり、車両工場もある多度津駅では、短時間の停車となった。

列車は土讃線へと入り、善通寺駅に停車した。四国霊場第75番札所・善通寺の最寄り駅であり、乗務員に善通寺までの徒歩時間を聞く乗客の姿が見られた。この駅では、15分近い遅れをもって運行されている特急列車や普通列車との待ち合わせを行うため、長時間の停車となった。筆者はこの日、1駅先の琴平駅で折り返し、別の用事へ向かう予定であったが、遅れの影響で時間通りに移動できなくなったため、善通寺駅で急遽下車することとなった。

## 6. まとめ

本稿では、岡山県・広島県・香川県で運行されている観光列車「La Malle de Bois (ラ・マル・ド・ボア)」について記してきた。車内の特徴などを知ったうえで、実際の乗車を通して、瀬戸内の観光地へと乗客を運ぶ観光列車としての役割を果たしているのかについて検討した。なお、以下のまとめの内容は、乗車した「ラ・マル ことひら」に基づく記述に限られてしまうことをご容赦いただきたい。

利用者の客層を振り返ると、一人旅もしくは高齢夫婦での利用が多く、連休にもかかわらず子ども連れの家族が少なかったことが印象的だ。これには、同区間を走る別の列車の影響が大きい。JR四国

は、岡山-琴平（もしくは）高松間で、「瀬戸大橋アンパンマントロッコ」を運行している。途中の児島駅から終点の琴平駅までの間で、トロッコ車両に乗車することができるほか、列車名の通り2両編成の車両すべてがアンパンマンの世界に彩られている。祝日運転が多い「ラ・マル ことひら」とは運転日が重なるため、客層によって需要のすみわけが生じている。ラ・マル・ド・ボアの観光列車としての落ち着いた雰囲気、これによって保たれていると言うことができるかもしれない。

観光地への輸送という観点からは、途中駅の児島駅や多度津駅で下車する人が少なかったことから、その役割を果たしていると考えられる。終点の琴平駅まで乗りとおす人がほとんどのようで、金刀比羅宮参拝目的の乗客が多く、列車名の「ことひら」が表しているターゲットから妥当といえる。一方で、車内放送で案内された、いくつかの見どころに、直接アクセスすることには向いていない点が少し気になった。瀬戸大橋を近くで見ることができる「瀬戸大橋記念公園」の最寄りである宇多津駅と、飯野山に近い丸亀駅は、いずれも通過駅である。もちろん、この列車のメインターゲットは、金刀比羅宮や善通寺へ参拝する人々だと考えられるので、これらの駅に停車する必要性は高くない。

岡山駅から琴平駅までのアクセスとしては他に、特急列車「南風」を利用する方法と、坂出駅で快速列車を乗り継ぐ方法が考えられる。その中で、特急よりも時間がかかり、快速よりもお金がかかるラ・マル・ド・ボアが、利用者に訴求できている点はどこにあるのだろうか。それは、車内外の装飾や音楽にあるといえる。車両そのものは213系の改造車であり、SLが引っ張る、旧型客車で運行される、トロッコ車両であるといった特徴はない。そこで、瀬戸内で展開されるアートと結びつけ、旅行カバンをモチーフにしたかわいらしい外装と、落ち着いた雰囲気の内装で乗客を惹きつけている。展示されているアート作品と、流れるBGMが旅情をかきたて、目的地までの時間を単なる移動時間ではなく、楽しい時間へと変化させている。

「La Malle de Bois（ラ・マル・ド・ボア）」は、4つの行き先へ向けて、土休日を中心に運行されている。車両の中身やサービスは同じでも、目的地が異なれば、見える景色も、乗っている人も、それぞれであろう。本研究の限界は、他3つの列車に乗車できていないことである。今回利用した「ラ・マル ことひら」以外にも乗車し、その違いを確かめてみたいところである。読者の皆さんにも、ぜひラ・マル・ド・ボアに乗車して、瀬戸内の魅力を発見していただきたいと思う。

(4年 井上)

#### ＜参考ページなど＞※いずれも2023年11月5日最終閲覧。

- ・交通新聞社/トレタビ「『La Malle de Bois（ラ・マル・ド・ボア）』4列車を徹底ガイド」  
([https://www.toretabi.jp/railway\\_info/jikoku2207.html](https://www.toretabi.jp/railway_info/jikoku2207.html)), 2022年6月20日.
- ・同上「『ラ・マル 備前長船』誕生！ 観光列車『La Malle de Bois』（ラ・マル・ド・ボア）赤穂線ルートを鉄道写真家・村上悠太が実乗レポート」  
([https://www.toretabi.jp/railway\\_info/entry-5591.html](https://www.toretabi.jp/railway_info/entry-5591.html)), 2021年8月10日.
- ・玉野市観光協会/宇野港ポータルサイト「宇野のチヌ」「JR 宇野みなと線アートプロジェクト」  
(<https://tamano-art.jp/>).
- ・鉄道ファン「快速“ラ・マル しまなみ”運転開始」  
(<https://railf.jp/news/2016/10/02/203000.html>), 2016年10月2日.
- ・西日本旅客鉄道株式会社「せとうちエリアのアートな観光列車 『La Malle de Bois』 運転計画につ

いて」,2023年1月30日.

- 西日本旅客鉄道株式会社/JR おでかけネット「La Malle de Bois (ラ・マル・ド・ボア)」  
([https://www.jr-odekake.net/railroad/kankoutrain/area\\_okayama/lamalledebois/](https://www.jr-odekake.net/railroad/kankoutrain/area_okayama/lamalledebois/)) .
- 西日本旅客鉄道株式会社/ふるさとおこしプロジェクト「La Malle de Bois (ラ・マル・ド・ボア)」  
([https://www.jr-furusato.jp/train/train\\_la-malle-de-bois/](https://www.jr-furusato.jp/train/train_la-malle-de-bois/)) .
- 乗りものニュース「旅行かばんがモチーフ 岡山の観光列車『La Malle de Bois』」  
(<https://trafficnews.jp/post/47001/2>) 2015年12月18日.



(快速マリンライナーと)

### 3.DL やまぐち号

#### 1. はじめに

本会では、2023年8月17日から21日にかけて夏旅行が行われた。昨今のコロナ禍により、本会での夏旅行は3年間ほど行われておらず、筆者にとっても初めての夏旅行であった。

本稿では3日目に乗車したDL やまぐち号について、その運行形態や車両の特徴や客層について概観したした上で、乗車していて気づいた点や乗車した感想について述べていきたいと思う。



DL やまぐち号(新山口駅にて)